



くたらの
特別史跡 百済寺跡
百済王氏の氏寺跡と推定される史跡公園。この一帯に拠点を持った渡来人たちの大きな依りしろだったと考えられる。松並木は枚方八景「百済寺跡の松風」に。



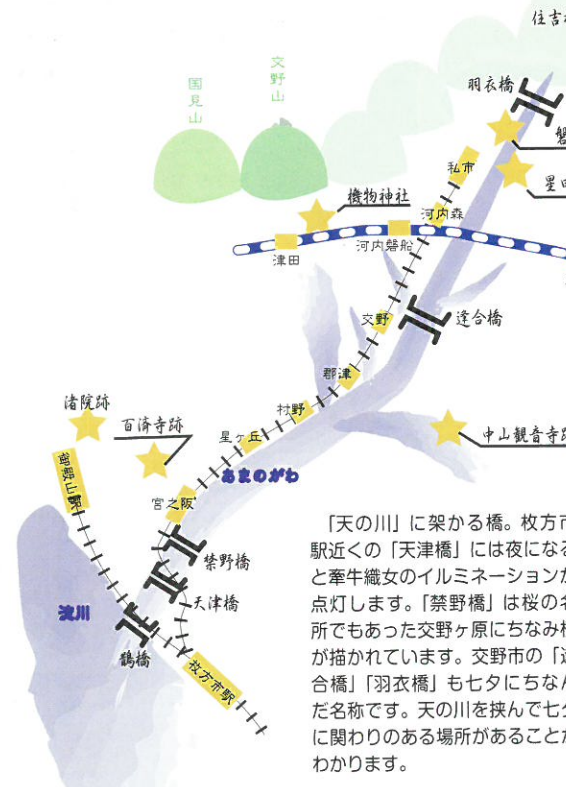
はたちの
機物神社
機織りの神として織姫「天棚機比売大神」(あまのたなばたひめのおおかみ)を祀る古社。機織りの技術を持つ渡来人「秦」氏の「ハタ」とも。



中山観音寺跡
奈良時代創建の寺院で、南北朝の戦乱により焼失し廃寺となった寺の跡地。園内には牛石(牽牛石)と呼ばれる巨石がある。



かきさき
鵜橋
現在「天野川」にかかる橋には、七々にちなんだ名前が命名されている。七夕伝説では、雨で増水した天の川を、鵜が羽を広げて牽牛と織姫の橋渡しをしたとされる。



※ qīxī chuánshuō は中国語の拼音(ピンイン)～発音表記～です。

古典『伊勢物語』で、七夕の川と見立てて交野ヶ原の天の川が描かれています。業平と同時代の文徳天皇も桓武天皇と同様に交野ヶ原に天壇を設け天帝を祀っています。平安貴族にとって、交野ヶ原は特異な空間だったのかもしれない。その後も和歌や漢詩、俳句など、沢山詠まれてきました。

近年、天の川星まつりの会の皆さんの活動や、宮之阪商店街のお祭り、そして新しい枚方フェスティバル、それらを通して、「七夕のまち枚方」が再確認されつつあります。枚方と七夕伝説、日本の七夕の先駆けともいえる古い伝承が、わたしたちの郷土にはあります。天の川の橋渡しをした鵜のように、全国に、そして後世に伝えていきたいですね。

天の河原に我は来にけり

枚方には「あまのがわ」という大層メジャーな名称の川が流れています。この名称は、昨日今日付けられたものではありません。「あまのがわ」といえば七夕伝説。枚方と七夕、その関係がとて深く長いものであることは、あまり知られていません。

2007年の今年、枚方・交野合同で全国七夕サミットが開催されます。全国に誇る枚方七夕物語をひも解いてみましょう。

笹の葉さらさら 軒端にゆれる
お星さまきらきら 金銀砂子



枚方・交野には宇宙や星まつわる伝承が残る場所が多々あります。交野市の磐船神社には「饒速日命」が天の磐船で降臨したという伝説、「天帝の車」である「北斗七星」を祀る星田妙見宮、機物神社(倉治)の織女と中山観音寺跡(香里ヶ丘)の牽牛が逢合橋で逢瀬を楽しむという話、天の川と天女の羽衣伝説、「中宮」という地名も天の中心の意味からなるとい説などなど。花崗岩の欠片を含む川砂がキラキラと光り、それを見た古人たちが、この川を銀河「あまのがわ」に見立てたのだともいわれています。

道路地図には「天野川」と表記されている一級河川。この文字があらわれるようになったのは明治以降のこと。それ以前は「天ノ川」「アマノカワ」などと書かれ、普段は歩いて渡れる干川でした。川の名の由来は、その恵みにより農作物が育つという意味で「甘い川」と呼ばれていたものが転訛したという説があります。それをいつしか七夕伝説の「天の川」になぞらえる人々が現れます。

古代、この枚方・交野周辺は渡来系の人々が多く住む所でした。また、「交野が原」と呼ばれ、天皇や貴族たちの狩猟の場でした。ここをよく訪れた天皇に、794年の平安遷都で知られる桓武天皇がいます。桓武天皇の母は、渡来人である百済系の女性でした。百済(現在の韓国の一部)といえはその王族の末裔で、奈良時代、聖武天皇による大仏建立の時に黄金900両を献上して、朝廷内での勢力を伸ばした百済王氏がいます。その後河内守を加えられ氏寺を建立、枚方市中宮にある「百済寺跡」がその遺構だろうと考えられています。

桓武天皇は、奈良の都を去り新天地を求めて、まず長岡京へ遷都します。そして、中国の皇帝が行っていた、冬至に都の南に「天壇」を設置して天帝(北極星)を祀るとい「道教」に則した儀式を行っていました。長岡京の南方、この枚方の地と推定される「交野柏原の地」を「天壇」を置くにふさわしい聖地として選んだのです。道教は「七夕」の起源に深く関わっています。七夕もおそらく渡来人達によってこの地に伝えられたのでしょう。

道教の聖地・交野ヶ原



天野川放水トンネル



天津橋イルミネーション(織姫)



天野川河川公園